新国立劇場

文化庁委託事業「令和 4 年度戦略的芸術文化創造推進事業」
令和 4 年度文化庁芸術祭協賛公演
新国立劇場開場25周年記念公演

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ

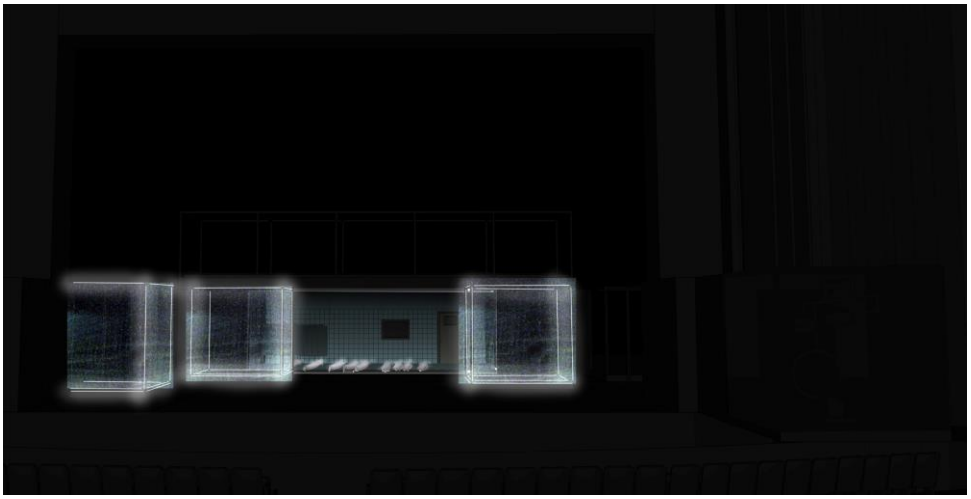
M.ムソルグスキー

ボリス・ゴドゥノフ

Boris Godunov ＜新制作＞

2022 年 11 月 15 日(火)～11 月 26 日(土)

会場：新国立劇場オペラパレス 2022 年 9 月 3 日(土)前売開始



ボリス・クドルチカの『ボリス・ゴドゥノフ』セットプランより

簒奪者ボリス・ゴドゥノフの破滅への転落　ロシア・オペラの金字塔

ムソルグスキーが完成させた唯一のオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』をポーランド国立歌劇場との共同制作で上演。皇帝ボリス・ゴドゥノフを題材に有力者たちの策謀と民衆の叫び、そしてボリスの苦悩がシェイクスピア史劇のように展開するプーシキン原作の悲劇を、近代性に満ちたムソルグスキーの斬新な音楽が緊迫感の中に綴ります。
『ボリス・ゴドゥノフ』は、日本での制作・上演が極めて稀で、日本の上演団体による演出付きロシア語全曲上演は史上初。滅多に見られない、貴重な上演です。

オペラの旗手トレリンスキ×大野和士、時代を問う衝撃の新プロダクション

映画監督出身のトレリンスキは現代的な解釈と美学を持ち、メトロポリタン歌劇場などで目覚ましい活躍をしている演出家。大野和士芸術監督とのタッグは、2018 年にトレリンスキがインターナショナル・オペラ・アワードに輝いた世界的話題作『炎の天使』以来です。トレリンスキは大野和士のロシア音楽へのアプローチを、「感傷に流されない強固で知的な構築」と絶賛し、『ボリス・ゴドゥノフ』を長い時間をかけ、共同作業で準備してきました。オペラ界最先端の黄金コンビにより、『ボリス・ゴドゥノフ』が人間ボリス・ゴドゥノフの物語、今日の世界を覆う不安や父と子の絆とコンプレックスを描く大きな物語として、圧巻の今日的ドラマへ変貌します。
オペラの現代性を発信し続ける新国立劇場から、世界のオペラの最前線を飾る新たなプロダクションがついに世界初演を迎えます。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

＜資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ＞
新国立劇場　制作部オペラ　広報担当　高梨木綿子
Tel：03-5352-5733／Fax：03-5352-5709／E-Mail：takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

簒奪者ボリス・ゴドゥノフの破滅への転落　ムソルグスキーのオペラが新国立劇場初登場

ムソルグスキーが完成させた唯一のオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』をポーランド国立歌劇場との共同制作で、同劇場芸術監督マリウシュ・トレリンスキによる新演出で上演します。

『ボリス・ゴドゥノフ』はロシア動乱時代の皇帝ボリス・ゴドゥノフの戴冠から死までを描くプーシキンの史劇を原作とし、有力者たちの策謀と民衆の叫び、そしてボリスの苦悩がシェイクスピア史劇のように展開する悲劇です。ムソルグスキーの音楽は近代性に満ち、ロシア民謡やロシア正教の教会音楽に基づいた斬新な和声が用いられ、ロシア国民音楽の金字塔として輝く傑作です。民衆の合唱や人物のモノローグのコントラストも鮮やかで、緊張感に満ちた硬質な音楽とドラマティックな展開が凝縮されています。

オペラ最前線の旗手トレリンスキ×大野和士、黄金コンビによる新プロダクション

優れたドキュメンタリーで国際的に評価されてきた映画監督出身のトレリンスキは、オペラの古典的、本質的な美しさを現代的な解釈と美的感覚で引き出し、ベルリン、パリ、ブリュッセル、ロサンゼルス、サンクトペテルブルクなど世界各地で目覚ましい活躍をしている演出家。特に、メトロポリタン歌劇場の『イオランタ／青ひげ公の城』『トリスタンとイゾルデ』はライブビューイングで世界へ発信され、迫力ある映像を駆使して人物の内面を掘り下げる手法でトレリンスキの名前を知らしめました。

トレリンスキはオペラを現代に開放し、最新の美的潮流を融合させ、作品にダイナミクスと現代的な感触を与えます。「私のすべての認識は、私の人生で直接または精神的に起こることと関係があります」「私はオペラ劇場を他の芸術のように、つまり人間同士の会話の場にしたいと思っています」と彼は言います。たまたまオペラを手掛けるようになった映画監督にすぎないと自ら述べているものの、オペラ界ではもはや彼なしでは今日のオペラは不可能とまで評されています。

トレリンスキと大野和士芸術監督とのタッグは、表現主義的アプローチでセンセーションを巻き起こし、トレリンスキがインターナショナル・オペラ・アワード最優秀演出家賞に輝いた世界的話題作・プロコフィエフ作曲『炎の天使』（2018 年）以来です。トレリンスキは大野和士のロシア音楽へのアプローチを「感傷や悲哀に流されない強固で知的な構築」と絶賛し、『ボリス・ゴドゥノフ』を共同で準備してきました。

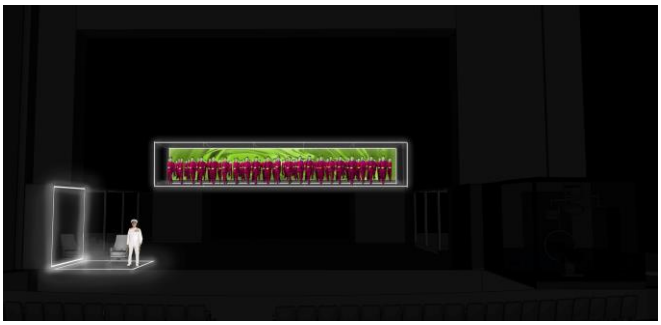
オペラの現代性を発信し続けている新国立劇場から、また新たに、時代を問う新プロダクションが世界へ向けて発信されます。

衝撃の新演出は「人間ボリスの苦悩を描く大きな物語」

トレリンスキは『ボリス・ゴドゥノフ』を歴史劇でなく、人間ボリス・ゴドゥノフの物語として構築します。皇子を殺害し帝位を手にしたボリス・ゴドゥノフは罪の意識に苛まれ、結果として人生の意味も権威も信じることができなくなっていきます。過ちを犯したことによって息子へ抱く罪悪感。トレリンスキは父ボリスと、帝位を継ぐべき唯一の拠り所であり、それ故に不安材料でもあり、自らの不完全さを思い起こさせる存在である息子との関係に大きくクローズアップし、父と子の愛情とコンプレックスを描く大きな物語を誕生させます。

パンデミックや戦争により世界が行き詰まることを目の当たりにした今日、世界は「明日はないかも知れない」「二度と同じことはないかも知れない」という不安に覆われています。トレリンスキは飢饉や疫病の“動乱の時代”の不安と、父子の個人的関係を『ボリス・ゴドゥノフ』の中心的要素と捉えて、手に汗握る圧巻の今日的ドラマへ変貌させます。

なお、『ボリス・ゴドゥノフ』には複数の改訂版がありますが、今回の上演では、1869 年の原典版と 1872 年の改訂版を折衷して上演します。



セットプランより

上演困難な大作に、実力派キャストが集結

皇帝ボリス・ゴドゥノフを巡る重層的な悲劇『ボリス・ゴドゥノフ』は上演に大人数を要し、日本で制作されることは極めて稀で、原語（ロシア語）上演、演出付きで全曲が制作・上演されるのは初めてのことです。『エウゲニ・オネーギン』『夜鳴きうぐいす／イオランタ』に続

く、大野和士芸術監督の新国立劇場着任以来3作目となるロシア・オペラ上演に向け、実力派キャストを内外から集め、万全の態勢で制作します。
タイトルロールには昨年の『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポーグナーで新国立劇場へ登場、要となってプロダクションを支えたベテランのバス、ギド・イェンティンスを招聘。シュイスキー公にはバイロイト音楽祭の常連歌手で来日も多いテノール、特にキャラクターテノールとして世界的に評価されるアーノルド・ベズイエンが出演します。ピーメンのゴデルジ・ジャネリーゼは、破格の美声を持つ若手バス歌手です。新国立劇場初登場を飾るテノール工藤和真、そして清水華澄、九嶋香奈枝、小泉詠子、金子美香と贅沢な女声陣、秋谷直之、河野鉄平ら実力派が勢揃いするキャストにご期待ください。

＜ものがたり＞

【プロローグ】戴冠式を前に群衆が集まっている。ゴドゥノフは最高位の僧ピーメンと緊張関係にあるが、儀礼的にその指輪に口づけをする。幼いドミトリー皇子の死の幻影に慄くゴドゥノフだが、戴冠式の彼の演説は人々の心を掴む。
【第1幕】6年後。ピーメンは僧グリゴリーに、自分こそ現皇帝に殺害されたドミトリーの生まれ変わりと信じ込ませていた。宮殿へ向かうグリゴリーは二人の僧と共に宿屋に立ち寄る。追手が到着するが、僧たちに惨殺される。
【第2幕】ゴドゥノフは数年の支配に疲れ切っている。娘クセニアは婚約者の死を悼み、息子フョードルは、将来の自分の治世の展望を話して、父の涙を誘う。ゴドゥノフの臣下シュイスキーは、皇帝の弱みに付け込むことを思い立ち、ゴドゥノフにウグリッチで目撃したことを克明に語り聞かせる。彼の地での行為を思い起こすゴドゥノフの前に、死んだドミトリーの天使のような姿の幻影が現れる。宮殿に迫るドミトリーの詐称者は、復讐の天使なのだろうか。
【第3幕】ゴドゥノフはまたも悪夢を見る。ウグリッチから来た子供たちがゴドゥノフを取り囲む。フョードルが憎しみに満ちた目で父を見る。父の罪を非難しているのだ。フョードルは高熱で朦朧とし、「ゴドゥノフがドミトリーを殺害した」という聖愚者による糾弾を繰り返している。
無秩序状態の議会へゴドゥノフが登場。シュイスキーは狂乱寸前の皇帝を嘲笑う。ピーメンが人々の病を癒すという亡きドミトリーの幽霊の話をし、ゴドゥノフを挑発する。ゴドゥノフは苦しみながら己の罪を告白する。そこへドミトリーの名を語る詐称者グリゴリーが登場、議会は混乱に陥る。死を悟ったゴドゥノフはフョードルを呼び、お前がすぐ支配者になるだろうと力づける。
【フィナーレ】集団の暴動が連鎖する中、ドミトリーの詐称者は自らが新たな皇帝であることを宣言する。

＊本あらすじは演出に準拠しています

＜主要キャスト・スタッフプロフィール＞

【指揮】大野和士　ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987 年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96 年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99 年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08 年モネ劇場音楽監督。12～15 年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16 年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者、15～22年バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。15年から東京都交響楽団。22年9月にはブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邉暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、22年『ペレアスとメリザンド』を指揮している。22/23シーズンは『ラ・ボエーム』も指揮する予定。

【演出】マリウシュ・トレリンスキ　Mariusz TRELIŃSKI

ポーランドの演出家。2008 年よりポーランド国立歌劇場芸術監督。映画監督出身で古典的美学と現代的美学、独自の映画的な解釈を持つ。1996 年、ワルシャワで『Heartsnatcher』を演出してオペラ演出デビュー。99 年にはポーランド国立歌劇場『蝶々夫人』がサンクトペテルブルク、バレンシア、テルアビブと世界各地で上演され、国際的キャリアのスタートとなった。15 年、ポーランド歌劇場・モネ劇場共同制作によりアデス作曲『Powder Her Face』を演出。メトロポリタン歌劇場 16/17 シーズン開幕を飾った『トリスタンとイゾルデ』は、バーデン＝バーデン、ワルシャワ、北京でも上演された。映画学校を卒業し、映画監督として数々の賞を受賞しており、映画では古典的様式や技術を用いながら、革新的な照明やアングルを取り入れる。10 年の『椿姫』はボブ・フォッシーの『All That Jazz』へのオマージュとして演出、現代的な鮮やかな解釈で、現代有数の演出家という地位を確固とする作品となった。 15 年ポーランド国立歌劇場・メトロポリタン歌劇場共同制作『イオランタ／青ひげ公の城』では、ホラー映画風の詩情や視覚を取り入れ独創的なダブルビルを創出。18 年エクサンプロヴァンス音楽祭『炎の天使』は表現主義的作品で、一大センセーションを起こした。20 年秋にはモネ劇場『死の都』の 100 周年記念上演で、新型コロナウイルス対策を期すため短期間のうちに映像を撮り直し安全に配慮したステージングを行った。映画監督として、『秋への別れ』でヴェネツィア映画祭金獅子賞ノミネート、ポーランド映画批評家賞などを受賞、オペラでもシマノフスキ賞、インターナショナル・オペラ・アワードなど数々の賞を受賞している。新国立劇場初登場。

【ボリス・ゴドゥノフ】ギド・イェンティンス（バス）　Guido JENTJENS

ケルン音楽大学で学び、デュッセルドルフ歌劇場のオペラスタジオにて歌手活動を始める。2005 年から 13 年までニュルンベルク州立劇場専属歌手の一員となる。専属歌手及びゲストとしてアウクスブルク、エアフルト、カールスルーエ、ヴィースバーデンの各劇場に出演。レパートリーは『ローエングリン』ハインリヒ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ポーグナー及びハンス・ザックスをはじめ多数。『青ひげ公の城』青ひげ、『神々の黄昏』ハーゲンのロールデビューは高く評価された。オペラやコンサートでのゲスト出演として世界中で公演。2013 年、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』の新制作でザルツブルク音楽祭へデビューを飾って以降、多くの名高い音楽祭にたびたび招かれる。新国立劇場では、2010/2011 シーズン『トリスタンとイゾルデ』マルケ王、2021/2022 シーズン『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ファイト・ポーグナーに出演した。

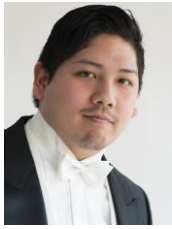
【ヴァシリー・シュイスキー公】アーノルド・ベズイエン（テノール）　Arnold BEZUYEN

オランダのテノール。アムステルダム大学、アムステルダム・オペラスタジオで学んだ後、アウグスブルク歌劇場、ブレーメン歌劇場、ウィーン国立歌劇場と契約、『蝶々夫人』ピンカートン、『ナブッコ』イズマエーレ、『オテロ』カッシオ、『椿姫』アルフレードなどに出演。特に『ニーベルングの指環』ミーメ、『サロメ』ヘロデで成功を収め、重要なレパートリーとなる。98年にはバイロイト音楽祭にミーメ役でデビューし、同音楽祭へはその後15年間出演を続ける。2020年、22年にはバイロイト音楽祭に『ラインの黄金』『ジークフリート』ミーメで出演。ほかに、オランダ国立オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ウィーン国立歌劇場など世界の主要劇場に『ばらの騎士』テノール歌手、『フィデリオ』フロレスタン、『ボリス・ゴドゥノフ』シュイスキー、『アラベッラ』マッテオ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィット、『ラインの黄金』ローゲ、『ラインの黄金』『ジークフリート』ミーメなどで出演している。新国立劇場初登場。

【ピーメン】ゴデルジ・ジャネリーゼ（バス）　Goderdzi JANELIDZE

ジョージア出身のバス。バトゥミ・パリアシュヴィリ音楽院、バトゥミ・オペラスタジオ、トビリシ国立音楽院で学んだ後、ボリショイ劇場ヤングアーティスト・プログラムに参加。2017 年エレーナ・オブラスツォワ国際コンクール優勝。18 年フョードル・シャリアピン国際コンクール優勝及び聴衆賞受賞。同年リムスキー・コルサコフ国際コンクール優勝。ボリショイ劇場専属歌手として『ドン・カルロ』修道士、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ファウストの劫罰』ブランデルなどに出演した後、欧米各地の主要劇場へ活躍を拡げ、2021/2022 シーズンには、『リゴレット』スパラフチーレでパリ・オペラ座に、また英国ロイヤルオペラに『サムソンとデリラ』ヘブライの長老でデビュー。最近の出演に、バルセロナ・リセウ大劇場『ラ・ボエーム』コッリーネ、ウェックスフォード音楽祭『ドン・キショット』タイトルロール、テアトロ・レアル『仮面舞踏会』トム、ブレゲンツ音楽祭、カナディアン・オペラ・カンパニー、コロン歌劇場『リゴレット』スパラフチーレ、ヴァンクーバー・オペラ『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、ボリショイ劇場『イーゴリ公』コンチャークなどがある。新国立劇場初登場。

【グリゴリー・オトレピエフ（偽ドミトリー）】工藤和真（テノール）　KUDO Kazuma



岩手県出身。東京藝術大学卒業。同大学院修了。声楽を小原一穂、佐々木朋也、市原多朗の各氏に師事。市川市文化振興財団主催第28回新人演奏家コンクール優秀賞。第33回練馬区新人演奏会オーディションにて最優秀賞を獲得。第1回かわさき新人声楽コンクール第1位。第84回日本音楽コンクール声楽部門第2位。第53回日伊声楽コンコルソ第1位及び歌曲賞（岡部多喜子・嶺貞子賞）を受賞。第17回東京音楽コンクール声楽部門第2位（最高位）及び聴衆賞を受賞。東急ジルベスターコンサート2019-2020ではベートーヴェン《交響曲第九番》テノールソリストとして出演。オペラでは『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥでデビューを果たし、『椿姫』アルフレード、『トスカ』カヴァラドッシ、『カプレーティとモンテッキ』テバルド、『ナブッコ』イズマエーレなどで出演。今回が新国立劇場デビューとなる。

【ヴァルラーム】河野鉄平（バス） KONO Teppei

クリーブランド音楽院大学卒業、同大学院修了。2003年サンフランシスコオペラ・メローラオペラプログラム参加。同年『フィガロの結婚』フィガロでオペラデビュー。06年、シカゴ芸術大学ディプロマコース及びシカゴ・オペラ・シアター研修プログラム修了。同年シンガポールでも『フィガロの結婚』に出演。アメリカで23年間過ごし、帰国後は17年小澤征爾音楽塾『カルメン』スニガ、18年セイジ・オザワ松本フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』ベットなどで好評を博す。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール／騎士長、『カルメン』エスカミーリョ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『シモン・ボッカネグラ』フィエスコ、『アイーダ』ランフィス、『ファウスト 』(ハイライト)メフィストフェレス、『エウゲニ・オネーギン 』グレーミン公爵などに出演。21年には二期会『タンホイザー』ラインマル、『魔笛』弁者、武士2に出演。新国立劇場では20年『夏の夜の夢』パック（台詞役）に出演したほか、22年『さまよえるオランダ人』オランダ人に出演し称賛を集めた。22年4月『魔笛』ザラストロ、7月『ペレアスとメリザンド』医師に出演。22/23シーズンは『ドン・ジョヴァンニ』騎士長にも出演予定。二期会会員。

【聖愚者の声】清水徹太郎（テノール） SHIMIZU Tetsutaro

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。第33回飯塚音楽コンクール第1位、第82回日本音楽コンクール入選他多数上位入賞。文部科学大臣賞、平成29年度坂井時忠音楽賞、平成30年兵庫県芸術奨励賞他多数受賞。「第九」「天地創造」「千人の交響曲」「メサイア」「マタイ受難曲」等多数のソリストを務める。『カルメン』『ボエーム』『魔笛』『夕鶴』『オテロ』『サロメ』『ラインの黄金』等出演多数。京都市立芸術大学、大阪音楽大学、滋賀大学各講師。びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー、＜びわ湖ホール四大テノール＞メンバー。新国立劇場では、21年の『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演、びわ湖ホール公演でドン・ホセ役に出演している。

報道用資料

令和4年度文化庁委託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」
令和4年度文化庁芸術祭協賛公演
新国立劇場開場25周年記念公演
新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
モデスト・ムソルグスキー

ボリス・ゴドゥノフ

Modest MUSSORGSKY / Boris Godunov
プロローグ付全4幕〈ロシア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2022年11月15日(火)14:00／17日(木)19:00／20日(日)14:00／23日(水･祝)14:00／26日(土)14:00
【会場】新国立劇場 オペラパレス
【チケット料金】 S:27,500円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:8,800円 ・ D:5,500円・ Z:1,650円
【前売開始】 2022年9月3日(土)
※予定上演時間：約2時間45分（休憩含む）
＊オペラ『ボリス・ゴドゥノフ』は、ロシアによるウクライナ侵攻が続いている状況から、ロシア人歌手の招聘手続きにおける影響を考慮した結果、確実に新制作公演の準備を進めるため、残念ながらエフゲニー・ニキティン、マクシム・パステル、アレクセイ・ティホミーロフ、パーヴェル・コルガーティンの出演を断念することと致しました。このため下記の通り出演者を変更して上演致します。

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	マリウシュ・トレリンスキ Mariusz TRELIŃSKI
美術 Set Design	ボリス・クドルチカ Boris KUDLIČKA
衣裳 Costume Design	ヴォイチェフ・ジエジッツ Wojciech DZIEDZIC
照明 Lighting Design	マルク・ハインツ Marc HEINZ
映像 Video Design	バルテック・マシス Bartek MACIAS
ドラマトゥルク Dramaturg	マルチン・チェコ Marcin CECKO
振付 Choreographer	マチコ・プルサク Maćko PRUSAK
ヘアメイクデザイン Hair and Make-up Design	ヴァルデマル・ポクロムスキ Waldemar POKROMSKI

ボリス・ゴドゥノフ Boris Godunov	ギド・イェンティンス Guido JENTJENS
フョードル Fyodor (Feodor)	小泉詠子 KOIZUMI Eiko
クセニア Kseniya (Xenia)	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
乳母 Kseniya's nurse	金子美香 KANEKO Mika
ヴァシリー・シュイスキー公 Prince Vasiliy Shuysky	アーノルド・ベズイエン Arnold BEZUYEN
アンドレイ・シチェルカーロフ Andrey Shchelkalov	秋谷直之 AKITANI Naoyuki
ピーメン Pimen	ゴデルジ・ジャネリーゼ Goderdzi JANELIDZE
グリゴリー・オトレピエフ(偽ドミトリー) The Pretender under the name Grigory	工藤和真 KUDO Kazuma
ヴァルラーム Varlaam	河野鉄平 KONO Teppei
ミサイール Misail	青地英幸 AOCHI Hideyuki
女主人 The Innkeeper	清水華澄 SHIMIZU Kasumi
聖愚者の声 The Yuródivïy	清水徹太郎 SHIMIZU Tetsutaro
ニキーティチ／役人 Nikitich, a police officer (Hauptmann)	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
ミチューハ Mityukha	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
侍従 The Boyar in attendance (Leibbojar)	濱松孝行 HAMAMATSU Takayuki

※本プロダクションでは、聖愚者は歌唱のみの出演となります。

合唱指揮 Chorus Master	冨平恭平 TOMIHIRA Kyohei
合 唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

芸術監督 Artistic Director	大野和士 ONO Kazushi

共同制作 Co-production with Polish National Opera ポーランド国立歌劇場

主催 文化庁／新国立劇場

公演情報 WEB サイト https://www.nntt.jac.go.jp/opera/borisgodunov/

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）
新国立劇場Webボックスオフィス http://nntt.pia.jp/

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

＊ Z席 1,650 円：公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

＊ **当日学生割引（50%）**、ジュニア割引（20%）、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引（50%）など各種割引あり。＊未就学児入場不可。

＊新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html